

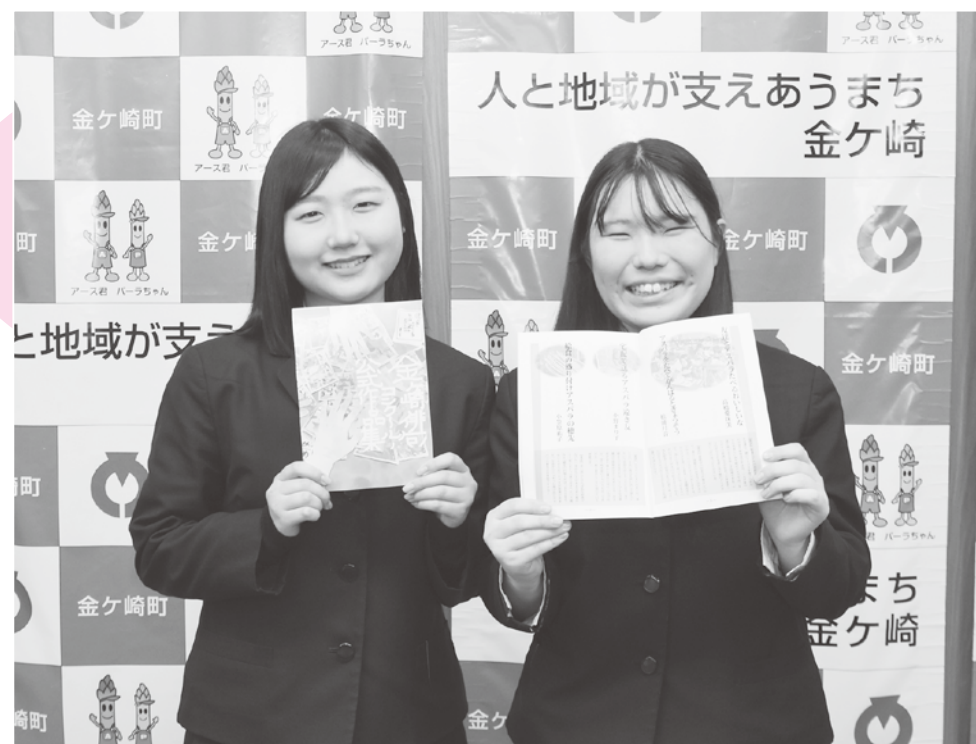
まちの話題



俳句作品集を作成

町出身の高校生（当時）3人でつくる「俳句で金ケ崎の魅力を語る会」は、3月12日、役場庁舎で同会が編集・制作を手掛けた俳句集を寄贈しました。同会代表の鈴木萌晏さんは「町民の素直な声なので、金ケ崎の魅力がたくさん詰まっている。町民の皆さんに読んでもらいたい」と話していました。俳句集には、昨年同会が主催した俳句コンクールの作品全248句が収録されており、町内公共施設や俳句集の作成に協力した店などで閲覧できます。なお、俳句集を閲覧できる協力店の詳細は、町ホームページでご確認ください。

作品集を手取る、同会代表の鈴木萌晏さん（右）と表紙等を手掛けた佐々木真彩さん（左）



表彰状を手し、笑顔を見せる菊地さん（左）



統計調査に長年尽力

統計調査員の菊地幸夫さん（二ツ森）は、2020年の農林業センサス功績者として、農林水産大臣表彰を受賞しました。菊地さんは、1979年から統計調査員として活動し、40年以上にわたり統計調査に携わり、精度の高い統計調査に尽力してきました。3月23日に役場庁舎で行われた伝達式では、高橋由一町長からねぎらいの言葉と共に表彰状が伝達されました。菊地さんは「はじめた頃や国勢調査は特に難しかった。長年の取り組みが認められてうれしい」と話していました。

実践的な英語を楽しく学ぶ

イングリッシュキャンプは3月15日と29日、中央生涯教育センターで行われました。英語検定の面接で役立つ内容を中心に、金ケ崎中学校の生徒がゲーム形式で学びました。参加した工藤陽文くんは「答えの理由を教えてくれたのでよくわかった」、村口祥真くんは「機会があればまた参加したい」と話していました。



英会話講師ディーン・ルツウェラーさんの説明を真剣に聞く生徒ら

高橋町長に募金箱を手渡す伊藤社長（中央）と佐藤執行委員長（左）



震災翌年から従業員が毎年続ける社会貢献活動 日本大震災の義援金を寄託

デンソー岩手（伊藤秀一取締役社長）と同社労働組合（佐藤丈治執行委員長）は3月26日、東日本大震災の義援金計137,156円を町に寄託しました。伊藤社長は「社員は県民がほとんどで復興への思いが強い。今後も活動を続けていきたい」と話していました。寄託された義援金は、町内の避難者支援に役立てられます。

新たな学校生活始まる

町内5つの小学校の入学式が4月8日、行われました。本年度は、金ケ崎小62人、第一小27人、永岡小11人、三ヶ尻小16人、西小13人の合計129人の新生が入学。石鼻あさひちゃん（三ヶ尻小）は、「入学式は楽しかった。小学校では給食が楽しみ。音楽をがんばりたい」と話していました。



三ヶ尻小学校城生野成則校長の話を真剣に聞く新生ら

新しい消防屯所の落成を祝い、テープカットする関係者ら



地域防災の新拠点が完成

町消防団第2分団第3部の消防屯所の落成式が3月28日、行われました。町の引き渡し式の後、地元実行委員会によって行われ、関係者らが玉ぐし奉てんなどの神事に臨みました。第2分団第3部高橋勝彦部長は「地域住民のご理解・ご協力を得ながら、団結力で精進していきたい」と話していました。